

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500096		
法人名	社会福祉法人本荘久寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護しょうぶの郷		
所在地	秋田県由利本荘市石脇字尾花沢57-22		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成29年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内バリアフリー、冷暖房設備等、ハード面がしっかりしており、一年中過ごしやすい環境です。一般浴槽には、玉川温泉の溶岩石が入れられており、皮膚疾患や神経痛等の効能があります。併設事業所と合同の施設行事に参加されたり、バスで出かけようの外出行事や毎日行っているレクリエーションで皆さん楽しんでいただく機会を設けております。また、地域のボランティアの方が来所され、レクリエーションに参加されたり、話し相手になっていただき交流を図っていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

賑やかな商業施設が建ち並び、自動車の往来が激しい国道沿いに事業所があります。近隣住民との会話は少ないが、特に町内会長さんからの積極的な協力の下で、町内会の行事に参加し、一緒に食事を楽しむなど地域の一員としての交流が続けられています。認知症の進行及び身体の衰えが徐々に進んできているため、日々、全スタッフで意見・アイデアを出し合い、個別の支援が実践されています。更に11月から職員の勤務体制を一部変更、日中の勤務者数を今までより多く設定し、より利用者の安全の確保、及び一人ひとりに寄り添う支援を目指した取り組みがされています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス施設としての意義の元、理念に基づいた目標を掲示し、共有、実践している。	理事長が念頭の挨拶で全職員に理念を周知するように書面で通達し、福祉サービスとは何か、利用者サイドで考えた行動・言動を共通認識し、実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺が商業施設が多く、地域住民との交流は少ないが、町内会に入会し、行事等で交流を深めることが出来るよう努めている。	町内会長の働きかけで、運動会・夏祭りなどに参加、介護支援ボランティアの受け入れ、所内にふれあいサロンを開設し、地域の方々と交流し、また 相談も受けるなど地域との繋がりを深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町内会長様や民生児童委員様に施設行事の案内を毎月出している。ふれあいサロンを開催し、地域の方々に施設の様子を見学していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議報告の中でご利用者様の状況報告や施設での行事の報告を行い、ご家族様や地域の方々からの意見を聞きながらサービス向上に活かしている。	行政職員・町内会長など多くの委員が出席し、事業所の取り組み状況を説明し、活発に意見交換しています。また 避難訓練時に合わせた会議も行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、事業所の報告を行い、市の取り組みや介護保険制度の動向等新しい情報を提供していただいている。	グループホーム協議会でもお互いに情報の交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回職場内勉強会にて「身体拘束廃止、虐待防止について」学んでいる。夜間以外の施錠はしないよう努めている。日々、ご利用者様の精神状態や行動を観察し、ケアを行っている。	離設する利用者もまれにあり、事業所が国道沿いにあることから、安全確保のために施錠することもあります。委員会や研修会で要因を話し合い、本人に寄り添ったケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回職場内勉強会にて「身体拘束廃止、虐待防止について」学んでいる。職員のケアの状況の確認特に入浴時は全身の観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は日常生活自立支援事業や成年後見人制度の研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様やご家族に十分な説明を行い、不安や疑問点を聞き、内容を説明し、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置している。面会時や利用料入金時等に日常の状況、サービスについての相談を行い、運営推進会議の状況報告の中で報告している。	家族とは馴染みの方が多く、面会時などでは気軽に話し合える雰囲気づくりに努め、意見などは運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やスタッフ会議の中で意見や提案を聞き、反映させている。	気づきやアイデアは全職員が文書でも提出し、要望などは運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスにて評価し、面談時職員の悩みや要望等を話し合い、職員がやりがいや自己研鑽して働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際を把握し、力量に応じた研修の機会の確保や法人内での勉強会への参加も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の研修への参加を行い、交流を行い、サービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	調査票やケアマネからの情報を活かし、本人が施設の環境や人間関係になれるよう配慮し、ご本人、ご家族の要望を聞きながら安心した生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の際、ご家族の要望や不安なことや要望について話を聞き、入居後もコミュニケーションを図りながら、会話の中で不安なことや要望を聞きながら対応し信頼関係を築いていけるよう取り組んでいる。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様・利用者様同士の関係を観察し、困っていることを解決しながらトラブルが起きないように、良い関係を築けるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態が変わったり、本人の要望があった場合等、必要時、都度、報告、相談を行っている。病院受診の付き添いが出来るご家族にはお願いしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「バスで出かけよう」行事で外出の機会を設けている。親戚の方や地域のボランティアの方が来所時コミュニケーションを図っている。	お盆や正月には家族の協力で出かけています。また 親戚や退職された職員の面会もあり、馴染みの関係が続くように支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起きそうな利用者間には、スタッフが介入し、話をしている。また、スタッフの方からも話題等を提供したり、パズルを一緒に行ってもらったりしている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもご家族や居宅支援事業所の担当の方と関わりを持ちフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、ご本人の希望や意向を聞きながら、スタッフ会議、申し送り時検討している。困難な場合は、ご家族の面会時に本人を交えて話をしている。	生活歴を把握しながらの会話、童謡や昔の歌を聞いてもらうなど雰囲気づくりを工夫して、聞くこともあります。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族のお話や調査を通して、生活歴や生きがい、これまでのサービス利用について把握するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の記録や申し送り等にて、一日の過ごし方や心身状態の変化、有する力等の現状の把握等に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の様子や会話の中からご利用者の思いを察したり、ご家族の面会時に話を聞き、反映している。担当職員がケアチェックを行い、計画作成担当者とカンファレンスを行い作成している。	本人からは日常の関わりの中から、家族・担当職員の意見・経過記録などを参考に、カンファレンスで検討し、本人本位の介護計画が作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録に記入し、日々の様子や情報を共有し、記録や見直しについて活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設的环境の中で、自分で出来ることを行いながら、安全で楽しみのある生活を過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常生活の中で、体調管理、受診の付き添いを行い、主治医、かかりつけ薬局と情報交換を行っている。	往診もありますが、殆どはかかりつけ医へ定期的を受診しています。職員が代理受診をすることもあり、受診情報はカルテや連絡ノートで共有しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、随時、病院と情報交換を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の説明をし、同意をいただいている。ご家族と相談しながら、他事業所との相談や必要な支援を行っている。	利用契約時に事業所の方針を説明しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員勉強会の実施や職員間で確認を行い、急変や事故に備える実践力を備えている。AEDを設置している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、昼夜問わず、利用者が避難できる方法を周知している。	防災委員会が日中・夜間の火災を想定した計画をつくり、消火・通報・避難訓練を実施しています。また 防災関連機器の点検・発電機の操作方法などを全職員が出来るようにしています。防災マニュアルも作成中です。地域の協力もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格や性格を理解し、コミュニケーションを通して要望を聞きながら、プライドやプライバシーを損ねないようなかけを行うようにしている。	接遇に対して、スタッフ会議などで事例をあげ、改善に繋がっています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中からお本人の思いや希望を聞き、自己決定できるよう支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や職員本人の都合を優先せず、その人の生活ペースに合わせ、なるべく希望通りになるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、身だしなみも自分で行えるよう声掛けを行っている。介助が必要な方には、介助を行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの摂取状態、嗜好に合わせながら、調理を工夫し提供している。衛生に配慮しながら、盛り付けや後片付けを手伝っていただいている。	食事中はなるべく自力摂取出来るように、見守り・声掛けをしています。食事前には口腔体操をしっかりして、飲み込みやすいようにしています。在宅時に使用していた箸やお椀を使用、季節々には利用者の家族より野菜や山菜の差し入れもあります。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーや栄養バランスは、献立表のカロリー等でおおよそ把握している。食事量や水分量もチェックし、カルテに記録しテイル。食事形態も個人に合わせv、工夫している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は声かけをし行っていたが、介助が必要な方には介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の観察や申し送り、排泄チェックシートを活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレでの排泄を行えるよう介助し、清潔を維持できるよう支援を行っている。	排泄状態によっては専門医に相談したり、失敗の要因を皆でアセスメントし、自立に向けた取り組みをしています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排泄チェック表や口頭で排便の確認を行い、便秘時の頓服や乳製品で対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、状態を見て入浴をしていただいている。入浴拒否があった場合は、次の日に入ってもらするなど本人の希望に合わせ、入浴してもらっている。	広い一般浴槽は併設の小規模多機能事業所の利用者と一緒に入浴され、交流の場ともなっています。また 3種類の浴槽があり、安心して気持ち良く、週2～3回入浴出来るようにしています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて居室でゆっくり休んでもらったり、安心して眠っていただけるよう支援している。また、落ち着かず、眠れない場合は、都度対応している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの説明と薬局薬剤師からの説明で把握している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできることを一緒に見つけ進めている。また、気分転換に、レクリエーションを実施し、楽しんでいただける時間を設けている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「バスで出かけよう」行事で外出レクを行っている。安全に実施できるよう2班に分けて行っている。	毎月遠出の外出は全員が参加し、楽しみのプログラムとなっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、希望のご家族から金品の預かり依頼書の同意を得ている。ご利用者の現金は施設の施設の金庫に保管している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があった場合、職員が手伝い、電話している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の業務の中で掃除を行い、清潔を保てるよう行っている。室温、湿度を確認しながら暖房や冷房管理を行っている。自宅から家具等を持ってきていただいている場合もある。	事業所内は床・腰板を始めふんだんに木材が使用され、温もりが感じられます。ホール隣の和室はふれあいサロンの場所でもあり、地域住民との交流の共用空間ともなっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全個室になっているため、居室で過ごされたり他利用者の方々と団欒できる機会を設けている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは自宅で使用していた家具等を持ち込んでもらい、なるべくご本人が居心地良く過ごせるようにしている。	各居室には大きな乾湿計が備え付けてあり、定期的に巡回し調節しています。また ベットや家具類は一人ひとりの動線に配慮したレイアウトとなっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできる事を生かし、なるべく本人様に行っていただくよう配慮している。困難なところは手伝い、事故につながらないよう安全な環境作りにつなげている。		